顧問審査員特別賞

特別顧問　竹下　景子

この賞は、部門の枠にとらわれず、感動的な作品、特に親子の絆や愛・やさしさが感じられる作品を対象に毎年選ばせていただいています。

楡井愛來さんの「耳について」は、「聴覚障害」と「友情」という二つのテーマが重なり合った作品であるように感じました。

聴覚に障害を持つお友だちともっと会話をしたい、という思いから様々な行動をおこした愛來さん。純粋で誠実さにあふれた思いが伝わってきて、とても温かな気持ちにさせられます。

身体に障害を持つ方々とその取り巻く環境については、私たち大人であっても、決して軽々しく取り上げてよいものではないと思います。けれど、「障害」という、ともすれば重くなりがちなテーマを含みながらも、彼女の作品からは明るい前向きな思いが力強く伝わってきます。それはきっと、愛來さんが素晴らしい友だちに恵まれ、友だちを大切にしたいという強い思いがあるからでしょう。作品中に出てくる愛來さんとお友だちの笑顔の写真からもうかがうことができます。

また、斎藤雄さんの「うそつきにかんぱい!」は、身近な人への「優しいうそ」というテーマを前向きにとらえた作品だと感じました。

年をとったひいおばあちゃんに、昔戦争で亡くなった弟の信夫と間違えられ、困惑する主人公の信也と、雄さん自身のひいおばあちゃんとのエピソードを交えながら、主人公に共感する気持ちを上手に表現しています。あまり元気ではないひいおばあちゃんに「元気そうですね」と声をかける母親を見て、「むねがいたくなってさびしいような気持ちになる」という表現からは、雄さんの小学生らしい正直で素直な気持ちが伝わってきます。

終盤で「人のためにつくやさしいうそもある」ことがわかったときの雄さんは、信也同様、とても晴れやかな気分だったことでしょう。

今回、選ばせていただいた2作品には「身近な人への優しさ」があふれていました。これからもその優しさを大切に、そして、様々なことに挑戦し成長してゆくことを願います。

国語部門

うそつきにかんぱい!

愛知県　愛知教育大学附属岡崎小学校　3年　斎藤　雄

ぼくは、信也のきもちがわかる。ぼくも大すきな大ばあちゃんが、さいきんとても弱ってきて、自分ではもう何もできなくなってしまった。信也のひいばあちゃんと同じでたくさん、たくさん年をとってしまったからだ。お母さんは、ぼくと弟をつれて、何ども大ばあちゃんのところへ行く。お母さんは、「どうですか。げんきそうですね。」なんて言うけど、ぼくは、お母さんみたいにえがおでそんなことといえないし、なんだか、むねがいたくなってさびしいような気持ちになる。（中略）

ぼくは、この本をえらんでよかった。この本から、人のためにつくやさしいうそもあることをしった。こんど大ばあちゃんに会ったら、えがおで「だいじょうぶだよ。早く元気になって。」と言ってみようと思う。

―抜粋―

小学校３年とは思えないような、一気によませる文章力がある作品です。選択した「作品のあらすじ」を上手にまとめて、作品を自分の立場や生活経験・曾祖母の症状と結びつけて大切なことを「学ぶ力」、性格の優しさ等を「表現する力」がとても優れています。小学校3年にとって、身近な人の老衰や死はまだ「恐怖」に満ちていて、触れたくない領域の一つです。ですが、斎藤君は曾祖母への「やさしいうその価値」を受け止めるように成長します。言葉や人間関係の、ある意味で深い部分を理解できるようになったと読むことができます。

理科部門

耳について

東京都　白百合学園小学校　3年　楡井　愛來

「耳の不自由な双子のお友だちともっと会話がしたい」という思いから、耳について研究をすることにした愛來さん。

耳のつくりや補聴器の仕組みを調べることから始まり、「どうしてお友だちは聞こえないと分かったのか」「どうしたら耳の不自由な人と話ができるようになるのか」を知るために、聴覚特別支援学校や病院を訪れます。授業を見学したり先生にお話を聞いたりする中で、家族やまわりの人の手助けが大切なことを学びます。耳の不自由な人の大変さに思いをめぐらせ「私にできることをしてあげたいです」という結論に至った愛來さん。彼女の誠実さと優しさを感じることのできる、素晴らしい作品です。

センバス・グループ賞

「センバス」とは、「生きる」と「実感」という意味のラテン語を組み合わせた造語です。人間が生きていくためには「自然環境との調和」が不可欠です。センバス・グループ賞は、「自然と人間とのかかわり」をテーマにしたものの中から最も優秀な作品に授与されます。

生活科部門　やさいでたのしいエコかつどう

東京都　立川市立幸小学校　1年　土屋　翔栄

自宅の近所の農園で、家族と野菜の収穫をしている翔栄さん。「曲がっていたり、傷んでいたりする野菜を捨ててしまうのはもったいない」という思いから、野菜でスタンプを作ることを考えました。スタンプを作る過程の中で、野菜の断面の様子を知り、同じ野菜でも、切り方を変えることで、様々なスタンプになることを発見します。そして、翔栄さんの「野菜スタンプづくり」がきっかけとなり、立川市の食育施設で、野菜スタンプを使った絵ハガキづくりのイベントが開かれました。

野菜スタンプづくりをとおして、「何でも捨ててしまう前に何かに使えないかと考えることが大事」だと気づきます。また、形は、スーパーなどで売られているものに比べると不恰好でも、味は変わらず美味しいということも分かりました。

身近な体験からものの本質に気づき、「エコ活動」の意義を学んでいく姿勢と、それを小学１年生とは思えないほどしっかりとまとめている点が素晴らしい作品です。

団体賞

アメリカ　サンフランシスコ日本語補習校

サンフランシスコ日本語補習校からは、国語・社会・理科・生活科の4部門で、合計101作品の応募をいただきました。海外からの応募ですが、毎年100作品前後を送っていただいており、先生方の熱心な指導と、それに応える生徒たちの努力がうかがえます。

どの作品からも、自分の好きなテーマについて、自由に考え研究しているという印象を受けました。また、日本とアメリカの違いを題材にするなど、海外在住者ならではの作品が見られるのも特長です。

どの作品からも、生徒たちが楽しみながら取り組んでいる様子が伝わってきました。今後の応募にも期待していきたい学校です。

香川県　さぬき市立大川第一中学校

毎年、パソコン部門で応募をいただいている学校です。大川第一中学校の生徒たちの作品にはそれぞれしっかりとしたテーマがあり、取り上げたテーマを表現するための手法としてパソコンを上手く活用している印象をうけました。また、動画を用いて相手に分かりやすく伝える工夫や、クイズを取り入れて観る相手を楽しませる工夫など、パソコンならではの「魅せる」工夫にこだわった作品が多いのも特長です。

大川第一中学校では、ホームページで作品を公開するなど、パソコンを使った活動に力を入れているようです。今回の作品からも、指導者と生徒たちの熱意をうかがうことができました。今後も注目していきたい学校です。

神奈川県　ペッピーキッズクラブ渋沢教室

ペッピーキッズクラブ渋沢教室からは、英語部門で36作品の応募をいただきました。英語教室からの応募では、飛びぬけて数が多く、教室をあげて参加してきてくれたことが伝わってきました。

この教室の作品には、手書きでスクリプトを準備してきてくれたものが多く、生徒一人ひとりがスピーチする内容をしっかりと考えてきたことが感じられました。朗読やスピーチでは、英語の発音やリズム、イントネーションなどに主眼が置かれますが、それだけにとどまらず、教室で学んだ事をもとに話す内容をしっかり考えて「書く」ことにまで力を入れている点が、評価の対象となりました。